

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人 峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地 (電話番号)	浜松市東区小池町38-1 (電話) 053-434-5710		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年3月24日		

【情報提供票より】(20年 3月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	3人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	240 円	昼食 410 円
	夕食	340 円	おやつ 0 円

(4) 利用者の概要(3月 11日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜松北病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は、利用者に意図的に活躍する場を提供して本人が活躍した評価として「ありがとう」と職員が何回言えるかが自尊心を保つことと理解してケアを実践している。丁寧な言葉使いで入居者を思いやるケアが行われており、家族からも信頼は強くなっている。
特別養護老人ホームが併設されている利点を生かして職員の異動後も馴染みの関係を保つ努力が払われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回は改善課題はなかったが、自分たちのサービスに対しては的確に評価を行っており、グループホームの理念を職員全員で把握して利用者へのサービスの提供を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価を行い、それぞれの気付きがあり、改善すべきことを話し合っている。また、法人全体で年に一度はマニュアルの見直しをしてよりよいケアの提供を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>評議委員、地域の介護者、民生委員、地域包括支援センター職員で構成し、必要時に職員と家族、行政担当者にも出席を依頼し開催している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に家族の意見や希望を積極的に聞くようにしている、ホームで問題があればすぐに報告するようにしており、家族も一緒に考えてもらうことによって、利用者や家族の絆を継続できるよう工夫している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に出かけ、お店の方と顔見知りの関係ができるような工夫をしたり、散歩にも毎日出かけ、関わりの機会が多くなるよう工夫している。自治会にも参加して地域の行事や掃除に参加している。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しているので、友達に会いに出かけたり訪問してもらったりして交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として①共に生きる②個別性③自尊心を保ち社会性を回復する ④地域に根ざしたホームの4点を基本とし、朝の申し送りで具体的に話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者に意図的に活躍の場を提供して、本人が活躍した評価として「ありがとう」を何回職員が言えるかが、自尊心を保つことと職員は理解して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等の行事に参加したり、地域住民を招待して地域との交流に努めている。買い物は同じレジに行くようにし、相手との交流できる時間を大切にしている。買い物、散歩、外食など積極的に地域に出向き、顔なじみになれるよう努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が2回自己評価を行い、評価の意義について理解を深めている。職員自身が評価を体験することによって、評価の意義を理解した上で、改善に活かせるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回行政、民生委員、地域包括支援センター職員等で会議を開き、サービス向上委員会へ報告、改善に向けた努力をしている。運営推進会議を開催したことによって、外部の人に内情を理解してもらい、交流を深めている。	○	参加メンバーの人々に会議の意義や役割等を十分に理解して積極的に参加してもらえるように働きかけ、今後、隔月開催につなげてもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が事業者連絡会の役員や講師をしており、行政との連絡を定期的に行い、サービスの向上に結びつけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>写真を撮り、手紙を添えて定期的に郵送し、同時に金銭の管理状況を報告している。撮った写真はホームの玄関に日常生活のコメントを添えて掲示している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応のマニュアルを作成し、苦情担当の職員を配置したり、「目安箱」を設けて意見等を取り入れる体制をとっている。また、入居時に利用者、家族に利用方法を伝えている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別養護老人ホームの部署に移動した職員が昼食を入居者と一緒にとるためにホームを訪れる等、異動後も関係を大事にしている。また、ホームから特別養護老人ホームに入所した利用者の食事介助に行き、支援を継続している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用後、1ヶ月間は管理者や事務局から研修を受ける。また、外部研修を受講したり、全体会議に参加している。介護技術は、管理者や先輩職員がその都度、アドバイスや指導を行う体制ができている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がサービス連絡会の役員を行っており、地域との連携を図りながらサービスの質の向上のため、研究会や勉強会に参加している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の自宅を訪問して、生活習慣や生活歴などの背景を把握し、入居後の意向に沿うケアの参考にしている。入居前のホームの見学を重視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が活躍できる場を意図的に作り、助けてもらったり、教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者の思いや性格、生活歴、家族関係等を把握し、意向に沿ったケアを行っている。職員が2名同行して、利用者のふるさとに、2泊3日の帰省をしたケースが、そういった経験を元に利用者に対する理解を深め、日々のケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者には個別に意見や希望を聞き、家族には日々の問題点を提起して、話し合い、改善の方法をケアプランに生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は個々の特性を把握して立案し、主任会議で見直しを行っている。また、入院等状態の変化に合わせて、随時見直しを行っている。	○	3ヶ月ごとに見直しができているが、短期目標が抽象的なので達成できたかどうかの見極めが難しい。目標は少しずつ具体的に立て、クリアできたら次の段階に進めて見直しの効果を上げることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に沿って、法人内の行事に参加したり、知り合いのところに遊びに出かける等の外出支援を行っている。また希望される病院等への受診支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は、認知症の理解が高く、病状の急変時は、夜間の往診も可能であり、協力体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最終的な対応について利用者、家族からの意見を入居前から確認し、対応が必要な際は、今後について家族、かかりつけ医と相談して決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの特性をきちんと把握し、言葉掛け等の接遇をこころ温まる態度で行い、利用者の誇りを傷つける事のないように支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は丁寧に気遣いのある態度で接して、利用者も楽しそうに笑顔で応じている。そうした会話の中で、本人の希望をくみとり、一人ひとりのペースを大切にされた暮らし方を工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者自身が職員に手ほどきをして、食事等を作り上げたり、利用者の残存機能を大事にしている。テーブルの準備、片付けも利用者を中心に行い、職員は謙虚に教えるに従う態度を貫いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、基本的に13:30～16:00となっているが、利用者の希望に応じて、他の時間も入浴可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者に対し、少しでもできることは依頼し「お願いします」「ありがとう」の言葉掛けをすることをモットーに、毎日の生活に張り合いや喜びが得られるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	平日は、スーパーへの買い物、神社までの散歩、他の事業所への顔出しなどを行い、日曜日には飲食店で外食をしたり、おやつを食べに行く等の外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関横に設置しているエレベーターにはロックはなく、出入口にも施錠はしていない。出入口付近まで何度も出てくる利用者もいるが、優しく声を掛けて対応し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回、防災訓練を行っている。ホームは4Fのため屋上から隣の特別養護老人ホームに非難できる経路を確保している。地域の人々へは普段より協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食べる量や調理方法を把握している。栄養バランスは特別養護老人ホームの管理栄養士が献立をチェックしている。献立の種類や数を利用者に選択してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階のため 眺めがよく、夜景もきれいとのことである。照明は段階があり、間接照明を用いている。夜間は、テレビの音量を下げ、安眠を妨げない配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由であり、家族へは自宅で使用している、なじみの品を持ってきてもらえるようお願いしている。居室の中は自分で製作した編み物の袋等が置かれ、その人らしい部屋づくりの工夫をしている。		